

令和6年度「山形学」第1回講座 実施報告書

◆日 時:10月19日(土)13:00~16:00

◆会 場:遊学館3階第1研修室

◆テーマ:大テーマ「おもしろ農楽」

第1回テーマ「おいしい山形のルーツを探り、未来へつなぐ〜知る〜」

◆内 容:

開講式:「山形学」実行委員

村山秀樹氏、佐藤純氏、結城こずえ氏、中川恵氏、廣瀬隆人氏、杉澤専務理事

講座:講師 江頭 宏昌氏(山形大学 学術大学院 教授)

石黒 亮氏(東北農林専門職大学 准教授)

コメンテーター:村山 秀樹氏(「山形学」実行委員)

コーディネーター:中川 恵氏(「山形学」実行委員)

◆プログラム:

13:00 開講式

13:10 講座「おいしい山形のルーツを探り、未来へつなぐ〜知る〜」開始

13:15 江頭宏昌氏講話

14:05 休憩(5分間)

14:10 石黒亮氏講話

15:00 村山氏コメント

15:05 休憩(10分間・質問票回収)

15:15 質疑応答

15:25 グループワーク

15:55 グループワークまとめ

16:00 終了

◆参加者数:47名

◆主催 公益財団法人 山形県生涯学習文化財団

協賛 公益財団法人やまがた農業支援センター

後援 山形県教育委員会、山形県農林水産部

◆当日の様子

- ・在来作物研究の専門家として全国的に知られている江頭氏の講話では、山形の在来作物のうち「食用菊、枝豆、里芋」に絞り、学問的な観点から3種を総括していただいた。由来や種の伝播経路、それぞれの歴史まで踏み込んだ講話は、「知っているようで知らなかったこと」を知ることのできた貴重な機会だった。
- ・さくらんぼの品種改良に献身的に取り組まれてきた実績のある石黒氏の講話では、我々が享受しているさくらんぼの数々が、先人の不断の努力によって生まれてきたものであることを知ることが出来た。
- ・グループワークは、自己紹介からはじまり講座受講のきっかけなどについて話し合った。極めて活発な会話が交わされた時間となった。

参加者の声

- ・食用菊・だだちゃ豆・里芋・さくらんぼ・紅王、それぞれの過去・現在・未来について、大変詳しく学ぶことができました。山形産の野菜・果物を特に食卓に上げるよう心掛けていますが、今日の講義を聴いて、更にその思いが強くなりました。
- ・講義の内容がバツグンでした。江頭先生の在来品種とそのルーツのお話は、食べ物の人々の移動の話と考えるとワクワクしました。石黒先生の品種改良のお話は、人の意志に基いた食物の進化の所は納得でした。
- ・ツマギクの本来の使い方ははじめて知りました。早速まわりの人に教えてあげようと思います。
- ・耕作者によるおいしいものを作ろうという向上心により、品種改良選抜がおこなわれてきたことに敬意を払わざるをえません。また、悲しいことに、サクランボの樹が次々と切り倒されています。農家の方もいろいろ未来に生きのこれるよう頑張っているようです。
- ・大学の講義では聞くことができないようなお話を、グループワークを通じて聞けたのでとても貴重な機会だった。
- ・グループワークも、とても楽しかったです。

○当日の様子



<開講催者挨拶 (杉澤専務) >



<講座> 江頭氏



<講座> 石黒氏



<質疑応答>



<コメンテーター> 村山委員



<冊子説明>佐藤委員



<グループワーク>



<グループワーク>



<コーディネーター>中川委員



<フルーツ 150 周年記念展示>